



皆さんも学んでみませんか

～履修証明プログラム I 期生の声～

実践に活かせる教育内容です

自分の仕事の質をたかめる教育内容

「独居高齢者」「老老介護」「遠距離介護」「認知介護」など今の社会の抱える問題を目の当たりにしていた当院では、いかに患者らしく生きることを支えるか悩んでいました。そんな中で“地域完結型看護”を学ぶために履修証明プログラムに参加しました。講義では、地域で活躍する方々の生の声を聴くことができ、すぐに職場に活かしたい内容ばかりです。履修証明プログラムでの学びを活かし、この1年で退院前カンファレンスの充実を図り、連携を意識した取り組みを行っています。3月からは退院支援チームで病棟リンクナースとして頑張っています。働きながら学ぶことは大変ですが、やりがいがあります。

(病院・A子)

実践や実習指導に直結する学びを得た

履修証明プログラムを受講して、地域包括ケアシステムの現状や地域での多職種の活動を知り、退院後の生活を見据えた退院支援の必要性を再認識できた。そして、在宅ケアマインドの視点を持って看護を提供していくことの重要性を学んだ。私は、退院支援委員会に所属している。委員会では、病院から退院した患者のその後を事例として取り上げ、実際の在宅療養の状況をフィードバックすることで、病院看護師が在宅ケアマインドの視点を持つことができるように関わっている。また、看護学生の実習では、受け持ち利用者や類似性のある利用者の情報を与えることで、在宅療養の継続を可能とする要因について考えるきっかけ作りをしている。今後も多職種と協働しながら、地域包括ケアシステムの構築と教育に寄与していきたい。

(訪問看護ステーション・C子)

実践に活かせる教育

退院調整看護師として介入する場面で、地域の生活の支援者(施設相談員やケアマネジャー)との相談や本人・家族への説明に、学んだことが自然と活かされています。地域の支援者の方々への配慮ができ、連携を大切に考えられるようになりました。そして医師・看護師、一緒に協働しながら活動しているMSWなど専門職とのカンファレンスをする時にも入学して良かったなあ実感します。また、講義で出会った先生の執筆した本を当院の「退院支援ガイドブック」として全職場に用意し参考にしています。最期に、自身の看護研究の取り組みからまとめ、投稿まで、授業内容が参考になりました。

(病院・E子)

県内多機関で働く同期生と交流できます

発言力のアップと有意義な他の履修生との情報共有

当院の設置主体は邑楽館林医療事務組合で病床数は約330床、一般の急性期病院です。私は、脳外科病棟、回復期リハ病棟、呼吸器内科病棟を経て、地域連携室に配属となり、3年目となりました。退院調整看護師として勤務する中で、病棟が主体となって退院支援を行うにはまだまだ課題がたくさんあると感じています。看護部全体の知識の向上を目指したいと考え志願に至りました。このプログラムに参加し、大学院生と合同の講義やグループワークを受け、発言力が身についたと感じます。また、他の履修生との情報共有もでき、とても有意義な時間です。

(病院・B子)

県内のさまざまな機関で働く同期生との出会いは大きな財産

「行ってみない」と上司に勧められ快諾したものの、仕事との両立に不安がありました。仕事の後に夜間講義があり、大変な時もありましたが、諸先生方や同期生の支え、職場スタッフの協力もあり、2年目を迎えることができました。講義では、包括支援に欠く事の出来ない連携の実状や課題の解決方法を探究したり、在宅ケアマインドを意識した学生指導方法等、多くの事を学びました。それらを日々の業務で実践・振り返りし、積み重ねることで、私自身も学び得るものが多く、学生と共に人として、看護師として成長できるよう努力しています。そして何よりも、県内様々な機関で働く同期生と出会えた事は、私にとってとても大きな財産となっています。

(訪問看護ステーション・D子)

地域の視点をもつ看護師になる

GPでの学びを地域づくりに役立っている

私は、昨年、受講を開始してから、転職をしました。転職の理由の一つに、我が生まれ育った町の、地域包括ケアシステムの構築を、「一緒にやろう」「GPでの学びを地域に反映して欲しい」と、今の、理事長に言われ、その熱き思いに、感銘し転職を決めました。昨年11月にみなかみ町福祉医療の会を当理事長が発足しその代表10名が行政から生活体制整備協議体として任命を受け、地域づくりや、医療連携システムの構築に関わっています。私もその代表に入らせて頂き、GPでの学びを持ち帰り、理事長をはじめ、行政や他施設のかたと共有し意見交換をしながら、楽しく充実した日々を送っています。

(訪問看護ステーション・G子)

訪問看護ステーションで実習できる魅力

私は病棟勤務をしています。履修証明プログラムでは1年目に在宅ケアに関する基礎知識を学び、2年目は自施設がある地域の訪問看護ステーションで見学実習があります。まだ実習先の訪問看護師の方と打合せをさせていただいたばかりですが、打合せの中で、認知介護の現状や、利用者やご家族の状況にあわせ主治医・薬局の薬剤師と連携しながら内服やインスリンの管理を工夫していること、ケアマネ・ヘルパー・デイサービスとの情報共有の事など色々お話を伺いました。利用者ご本人だけでなく、一緒に暮らしている家族の様子にも気を配り迅速に対応されていることが伝わり感銘を受けました。これまで自分の勤務する院内のことしか見えていませんでしたが、自施設と連携する地域の訪問看護ステーションで実習する機会が得られ視野を広げられることが大きな魅力だと思います。

(病院・H子)

地域の視点をもって看護ができるようになった

私が履修証明プログラムを受講することになったのは看護部長の勧めがきっかけでした。最初は「自分には難しすぎるかな」と考えていましたが、実際に受講してみると、大学院での講義や様々な職種の方からそれぞれの目線で話を聞く中でわかりやすく勉強できました。私が勤務する原町赤十字病院は、高齢者の入院が多いという特徴があり、在宅を考慮した退院支援について悩む場面が多くありました。今でも悩む場面はありますが、地域の視点をもって看護ができるようになったと思います。今後は、自分だけでなく、周囲に働きかけて病院全体で取り組んでいける活動をしていきたいと考えています。

(病院・A夫)



自己のスキルアップにつながります

自己成長に役立つ

仕事と家庭を持ちながら、群大に通って学ぶということは想像以上に大変でした。毎週末の講義にレポート課題が重なり、何度もくじけそうにもなりました。ですが、素晴らしい講師陣による講義はすべて興味深いものであり、自分自身の知見を深めることに役立ちました。特に医療・福祉政策についての講義を聞く機会が持て、今後自分がどんな医療人でありたいのか、深く考えるきっかけになりました。他分野で活躍する同期生との交流も大変参考になり、励まされることも多かったです。学びの多い時間が持てたこと、大変感謝しています。

(特別養護老人ホーム・F子)